

学校教育目標：光と恵みと力の旭南 ～「旭南行動人」の実現を目指して～



校報 旭南

第14号

秋田市立旭南小学校

令和7年3月4日

文責：校長 木谷光男

6年生を送る会特集 ～心の育ち、絆のすばらしさを実感～

「豊かな心を育む教育の推進」は、経営の重点努力事項の一つです。その中の具体的な取組に、縦割り活動「ハピスマ活動」の充実（6年生を送る会）があります。また、人と人との絆づくりを目指した絆教育プランの一つに、子どもが「人の絆」のすばらしさを実感するための活動があります。その活動の中に「6年生を送る会」が取り上げられています。これらのことは、HP、学校案内の「学校経営方針」や「絆づくり教育プラン」にも明確に記されています。

他の行事も明記されていますが「6年生を送る会」は、最も価値ある活動です。理由は、子どもたちの手で作り上げている、子どもたちの1年間の思いが詰まっている、進学・進級への希望や自覚を育むことができる会と考えているからです。

価値の高さは、子どもたちの表情・声・姿勢・振り返りなど様々なことから見取ることができました。

【華やかな会の裏側で ～次期リーダー5年生の自覚と5年生の自信を支える担任～】



＜会場準備＞
ピアノの運搬



＜リハーサル1＞
司会進行の確認



＜リハーサル2＞
花のアーチ待機場所の確認



＜リハーサル3＞
カーテンの開閉



＜リハーサル4＞
マイクの受け取り場所確認



＜リハーサル5＞
全校での最後の応援エール練習

「みんなが作ったステージ飾り『未来へはばたけ みんなのリーダー ありがとう6年生！』きれいだね。心が温かくなるね。」「アーチをやり終えて戻る歩き方も立派。」「いい返事ですね。」リハーサルをしながら、初めて全校の中心になって取り組む5年生の子どもたちを勇気付ける先生たち。

【華やかな会の内面で ～自信・感謝・憧れ・寂しさ・希望・責任・・・～】

当日のリハーサル、当日に至るまでの取組で自信を深めた5年生のリーダーシップのもと、いよいよ各学年の心がつながり合う会の始まりです。会の華やかさばかりに目が行ってしまいますが、子どもたち一人一人、様々な思いをもったことでしょう。



入場が始まると、5月に行われた「1年生を迎える会」での入場シーンが目に浮かびました。5月、不安と喜びが入り混じっていた1年生。今日の1年生は仲よくしてもらった6年生の手を取り、誇らしげです。入学当時、6年生は朝の準備のお手伝い

＜6年生を案内する1年生＞

＜5月、6年生に案内される1年生＞

いや、本の読み聞かせをしていました。お世話になった6年生を今度は1年生のぼくたち、わたしたちがお世話をするのですから。



また、各学年の発表によるプレゼントを見つめる6年生の柔らかな表情や笑顔に、全校の子どもたちの心をつながりを感じました。「1年生を迎える会」では6年生が楽しいダンスを披露し、1年生の心を笑顔いっぱい、明るくしてくれました。その他、

＜各学年の発表に笑顔の6年生＞＜5月、6年生のダンスに喜ぶ1年生＞1年間6年生が全校のために尽くしていたことを子どもたちは感じ取っていたのでしょう。その心が感謝という思いになり、歌や演奏、ダンス、ふれあいなどのプレゼントに表されました。6年生もその思いを確かに感じ取っていました。



6年生の感じ取った思いが、合唱「旅立ちの日に」に表現されました。それまで笑顔や歓声に包まれた会場が6年生の歌声だけが響く空間に変わりました。子どもたちの目は6年生の姿に釘付けでした。歌の歌詞が分かるはずもないある1年生は、一

＜6年生の合唱「旅立ちの日に」＞

＜身を乗り出し見つめる1年生＞

緒に歌うほど引き込まれていました。子どもたちは、憧れや尊敬、そして大きな存在と別れる寂しさを感じていたことでしょう。



＜6年生へのメッセージカード＞

＜6年生からのしおり＞

会終了後、「6年生のようにきれいな歌声になりたい。」「来年は5年生、副リーダーを頑張るぞ。」「決められていない仕事も進んでできた。」「楽しい思い出をありがとう。」等の振り返りがありました。6年生の取組や精神が在校生に引き継がれているとともに、別れの寂しさと希望を感じる会になりました。

※「6年生を送る会」の進行の様子や各学年の発表の様子は2月27日(木)のHPで紹介しています。

※写真は、HPで校報を開いていただくとカラーでご覧いただけます。